

同期生へ「贈ることば」

2024-9-1 松香

今回が「やあやあ会誌」最後と言う事で最近の同期生3人の思い出を綴りたい。小生は大学卒業後 日立製作所に入社して茨城県の日立市に約30年間いたので、この間「やあやあ会」には欠席続きで、無事出席出来たのは東京に出てきてからである。

勿論会社には同輩・先後輩に戸山出身者は多数いたが、薄い関係であった。

此処では最近お付き合いが多かった(コロナ前) 南徹(3F)、小堀鷗一郎(3F)、故井上秀一(3B)さん関係の話を披露したい。

1989年突然日立市から東京転任(情報・通信担当取締役)を命じられたら、南徹(3F)さんから電話があり「上京歓迎会を開いてやるから新宿に出てこい」と呼び出された。

徹さんとは、そんなに親密ではなかったが、1E組時代からの長い付き合いだった。

喜んで出掛けた席上小堀鷗一郎さん他数人から歓迎され大変嬉しかったのを憶えて

いる。南さん、小堀さんはその頃ボート漕ぎの仲間で長い付き合いだったらしい。

小堀さんとは、戸山時代は殆ど付き合いはなかったが、宴会席上で小生が大動脈瘤で

「手術待ち」だと云った所、当時現在の国立国際医療研究センター(NCGM)長だった

彼から「良い外科医を紹介するからすぐ手術するべし」と言われた。1年位先でも

良いかと迷っていた時だけに、背中を押されて結果として大変救われた。命の恩人だ。

小堀さんにはつい最近も救われた。今年4月に大腸癌(悪性黒色腫)が発見された時にも

相談した所 早速上記NCGMの名医を紹介頂き、無事、手術は成功し癌の転位も無く

無事に生きている。2度に亘って命を救って頂き感謝感激、御礼の言いようも無い。

話は変わるが、1989年東京に出てきた翌年新任取締役として最大顧客であるNTTに新年の挨拶に伺った。NTT側の役員も全員並んで業者の新年挨拶を受ける形で、立っておられる訳だが、ふと見るとやや童顔の井上秀一新取締役が立っているではないか。井上さんも小生の名前がやや珍しい事も有ってすぐ思い出してくれ、その場で「おお！井上・おお！松香」という事になった。小生は電気工学科出身だが、通信は苦手で、会社では強電担当だったため、今回の人事で弱電の通信まで担当範囲になり「困ったな」と思っていた所だったので、全く救いの神様だった。井上さんとはその後公私に亘ってお世話になった。小生の幹事役で小堀さんの知己の店である新宿歌舞伎町の韓国料理屋「もんしり」と成城学園前の小料理屋「咲々」で20回位会食を楽しんだ。

「もんしり」のメンバーは南、小堀、井上、藤保(3F) 「咲々」のメンバーは小堀、井上藤保、大貫(3F)、藤崎(3B)だった。

井上さんは一昨年亡くなられた。3週間位前に電話した時「松香、年を越せそうにないよ」と弱弱しい声で言ってきたが、2年に亘る白血病との闘病生活の最後だった。誠に残念且つ淋しくてならない。

我々全員が米寿に近づいているこの頃、日々健康維持との闘いである。なんとか良きQOLを保ちつつ生き続けたいと思う毎日である。この点では小堀さんの「死」に関する緒著作に教えられる事が多い。

長くなってしまったが、高校の同期生はいつも「おい、おまえ」の関係で偶然の邂逅とはいえ気を遣う事のない有難い天からの授かりもので、生きている限り大切にしたい宝物だ。

